

寿楽苑だより

115号



社会福祉法人 舟見寿楽苑

発行責任者/施設長 高村 敏明

〒938-0103 富山県下新川郡入善町舟見1664

TEL 0765-78-1935 / FAX 0765-78-1941

e-mail : jurak273@funamijurakuen.jp

http://www.funamijurakuen.jp

舟見寿楽苑

検索

発行/令和 4年 1月 20日

クリスマススイーツ交流会

12月21日、広場でクリスマススイーツ交流会を開催しました。

職員がサンタクロースやトナカイに扮し、入居者様をお出迎えです。会場には、クリスマスツリーや壁飾りなどがあり、クリスマスの雰囲気は満点。

まず、職員による鳥を追いかけるという踊りから、スタート。「見っしょい。あの恰好、おっかしいわ」と、入居者様は手をたたきながら、声を上げて大笑い。

次は、お手玉等を投げ、サンタの顔が貼ってあるコップを倒す、というゲーム。コップを全部倒すと、プレゼントがもらえるとのこと、表情は真剣です。



コップ1個倒すと「当たった」と大喜び。何回投げても倒れない時は、隣の入居者様に「あんた、代わりに投げてよ」と連係プレーも見られ、全部倒れた時は、周りから拍手喝采。

ゲームの後、ケーキなどのスイーツや飲み物等が運ばれてくると、「どれにしようか」「みんな、おいしそうやから迷ってしまうわ」「やっぱり、こっちにしようかね」と、目を輝かせるようにしながら、大好きなスイーツを選んでいました。

このクリスマススイーツ交流会は、NHK歳末たすけあい寄付金の助成を得て、開催したものです。



百歳お祝い会

12月16日、小ホールで金田キイ様百歳のお祝い会を開催しました。

金田様は、大正13年12月生まれの満百歳で、入居者様たちが大勢揃ってのお祝い会です。

職員代表からのお祝いの言葉を聞き、「本当に、百歳になったがけ。なつたと、思われんけどね」。

会場には、お祝いのくす玉も準備。お祝い品贈呈の後、ケーキタイムになると「ケーキ、みんなで分けんなんまい」と心優しい言葉です。一口食べてから「まいわ」と、嬉しそうな笑顔が素敵な金田様でした。



ひばり野苑

一番人気は綿菓子

12月20日、ツリーなどが飾られたユニット広場で、クリスマス会を開催しました。入居者様は、キラキラの飾りがついた帽子や、トナカイのカチューシャ等をかぶって集合です。

まず、クリスマスの小物作りから開始。コップにモールやリボンで、自分の好きな飾りつけをしながら、仕上げていきます。器用な方は、赤と緑のクリスマスカラー使って、それはきれいな小物入れを。

続いて、お待ちかねの大きなケーキが、目の前へ登場すると、入居者様は途端に笑顔に変わります。



切り分けたケーキが配られると、添えてあったフォークを使わず、そのまま手が伸びてしまう入居者様も。

一口食べ「このケーキ、なんて甘いがある」と、笑顔の輪が会場中へと広がっていきました。

そして、サンタからのプレゼントが準備されており、紙袋に入った菓子等を、お一人ずつへ手渡しです。

なかでも、一番人気だったのは綿菓子。「きゃ、おいしいわ。子供らに買ってやっと思ったけど、食べたが初めてやもん」と、懐かしそうな表情で。

クリスマス会場には、いつまでも、入居者様のこぼれるような笑顔が満ちていました。



喜楽苑

クリスマス会



12月21日、クリスマス会を開催しました。中央通路を会場にし、職員演じる劇に入居者様も加わり、大笑いで幕開け。その後、3会場に分かれ、ケーキや飲み物等をいただきながら、「んまいケーキやね」「さっきの時代劇、面白かったわ」などと話が弾みます。

そこへ、サンタがプレゼントを持って登場。「サンタ、どっかで見たことあるさんやわ」「写真一緒に撮ってもらえるけ」などと、楽しそうな入居者様の声が会場に響いていました。このクリスマス会は、NHK歳末たすけあい寄付金の助成を得て開催したものです。

お節料理



元日の昼食は、本格的なお節料理です。お節料理は、昨年に引き続き2回目となり、入居者様から「正月、お節料理が食べたいわ」との要望にお応えし、準備されたものです。

「見た目もきれいやし、なんていい味なが」「このごぼう、固いかと思たら軟らかいね」「ブリ、いい味付けしとるよ」などと、味談義で盛り上がります。

食べ終わって手元にある器を見ると、どなたも残さずに完食。「おいしかった。また来年も、お節料理お願いね」と、もう1年先のリクエストが職員の手へ。

ショートステイ

すごろくゲームで自己紹介

12月21日、大ホールでクリスマスツリーを囲みながら、クリスマス会を行いました。

利用者様と職員が、サンタなどの帽子をかぶってスタートです。

「こい、かわいい格好、させてもらえらけ」と言いながら、他の利用者様や職員等の姿を見て、思わず笑顔に。

大きなサイコロを使ったすごろくゲームでは、サイコロの目の数のカードを引き、そこに書かれている、自己紹介やクイズ等に答えねばなりません。



「みんなの前で、話すがちゃ難しいわ」「何、言うたらいいが、わからんもん」などと言いながら、どの利用者様も上手に答えます。

ゲームの次は、ケーキバイキング。

「あれっ、うまそうやわ。どれにしようかね」などと、ケーキを選ぶのに迷う利用者様が続出。「やっぱり、これにするわ」と、指さしたのが抹茶ケーキで、この日の人気ランキング一番だったようです。

「今日は、ゲームもしたし、ケーキも食べられたし、楽しい日やったわ」と、隣の利用者様と笑顔でおしゃべりに興じる利用者様の姿が、あちこちに。



デイサービス

羽子板ゲームとだるま積み



新年最初の3日間は、羽子板ゲームと、くじ引き。そして、次の2日間は、だるま積みと、くじ引きを行いました。

羽子板ゲームは、2チームが横一列に向かい合って並び、段ボールで作った羽子板を使いながら風船を叩き、最終的に風船が相手の陣地へ落ちていたチームの勝ち、というものです。

「むやみに、かつけれんがいぞ」

「こりゃ、おもっしょいわ」

毎回、白熱したゲームになり、力が入り過ぎて風船



が遠くへ飛んで行ったときなどには、全員大笑いし、和気藹々とした雰囲気です。

だるま積みは、牛乳パックで作ったダルマを、どれだけ積み上げられるかを競うゲーム。真剣な表情で、ゆっくりと積み上げていたのに崩れると、「あっ。もう少しやったがに、残念」と言いながらも、満足そうな表情です。

ゲームの後は、くじ引き。

当たりくじの利用者様は、職員から手作りの絵馬を受け取り、「やったー。正月早々、良かったわ」と、笑顔で手にしていました。

まごころ善意

令和 3年11月18日～令和 4年 1月17日
(順不同・敬称略)

寄付金

・木根福寿会 ・匿名



寄付物品

・木根福寿会 ・若林 清彦 ・大野 義尚 ・稲村 あき子 ・新田 健 ・矢後 好美
・神保 史貴 ・匿名

皆様 ありがとうございます



新型コロナウイルス等、ご家族様へのお知らせ

新型コロナウイルス等感染症防止で、面会はオンライン面会限定のため、大変ご迷惑をおかけしてはいますが、収束するまでの期間、何卒ご理解ご協力くださいますようお願い申し上げます。

また、舟見寿楽苑のホームページが、一部を除き閲覧できない状況になっており、復旧するまで日数を要する予定です。申し訳ございませんが、しばらくお待ちくださいますようお願い致します。

クリスマス会での入居者様・利用者様



正月飾り



元日前から、施設内のあちこちに、正月飾り等が展示され、入居者様・利用者様などの目を楽しませていました。

そのなかでも圧巻だったのが、デイサービス通路、宝船に乗った七福神です。壁の天井から床まで覆い尽くすかのような大きな貼り絵は、利用者様の協力を得、4か月もかけてコツコツと作り上げたもの。

前を通りかかった利用者様が壁飾りに気づいて立ち止まり、「なんて立派になったがけ。見るだけで、値あるわ」と、感心した様子で見入っていました。

編集後記

雪の始末のため、スコップ等を使って家の前で除雪をしていた時のこと。近所で雪かきをしている人の姿も見え、互いに挨拶です。すると、一緒に雪かきをしていた家人が「いつもやと、外で人の姿は見られんのに、雪のお陰で顔を見ながら話ができるね」。そして、「雪かきは大変やけど、いいこともあるがや」。

除雪の後、家で休んでいた時、テレビをつけっぱなしにしながら、家族全員見ていたのがスマホ。それに気づいて「黙ってスマホばかり見るがって、どいがある」。そう言うと、家人が「暖房を、火鉢に変えたらいいかも知れんね。指先を温めるため、両手を炭火の方へ近づけるはずやから、スマホなんて持たれんし」。

楽で楽しい方へ流りたいのは、人の常。それを断ち切るには、荒療治が必要なこともあるけど、辛くて苦しいばかりだと長続きしないもの。たまに、スマホの電源を切って、外へ出るぐらいなら今日からでも。